

TIMS 主な仕様

入力部

項目	仕様及び推奨動作条件
アナログ電圧	0 ~ + 5 V 分解能 5 mV 8 c h
デジタル入力	接点入力 オープンコレクタ入力 4 c h
デジタル出力	L E D点灯または同等負荷 4 c h
温度計測 K熱伝対	- 200 ~ 1300 分解能 0 . 1 1 0 c h
使用温度範囲	- 3 0 ~ + 8 0
使用湿度範囲	9 0 % R H以下

インターフェイス

項目	仕様
規格	R S 2 3 2 C R S 4 8 5 (増設用・最大 100 台)
伝送速度	115200 57600 38400 19200 9600 4800 2400bps
伝送方式	調歩同期式

機能

項目	仕様及び推奨動作条件
電源	
A Cアダプター	入力電圧 1 0 0 V
D C入力	8 V ~ 1 6 V
内蔵 N i M H 電池	4 . 8 V 1 2 0 0 m A h
外形寸法	1 0 0 mm (W) × 3 5 mm (H) × 1 2 6 mm (D)
重量	5 5 0 g (バッテリー含む)

はじめに

このたびは、TIMSまたはTIMS 関連商品をお買い求めいただきまして、ありがとうございます。

TIMSは、K熱伝対ポート10ch・アナログポート8ch・デジタル入力ポート4ch・デジタル出力ポート4chの情報を高精度に計測してロギングします。そして、その情報を各種の通信回線を経由して転送したり、モニターすることで、遠隔地からの各種装置や設備の監視を、効果的に支援するコストパフォーマンスの高いシステムです。-40～1300のワイドな計測範囲と0.1の分解能を持つ温度ポートをはじめ、各ポートからの情報を設定時間毎(1秒～3600秒の範囲で任意に設定可能)に約23000回分のロギングができます。

それは、1分毎の情報をロギングしたとして、半月分以上もの情報になります。

付属のWindows95/98対応ソフトウェア、Tims Terminalを使用することで、解析やシミュレーションのほか、無線機や携帯電話・衛星移動通信機(Hayes ATコマンド準拠)などを利用して運用するテレメトリシステムにも対応しています。

安全にお使いいただくためにかならずお守りください

表示の説明



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。



お願い

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、本製品が持つ本来の性能を発揮できないことや機能停止をまねく内容を示しています。

図記号の説明



この記号は禁止の行為であることを告げるものです。

具体的な禁止内容は、(左図の場合は分解禁止)図記号の中や近くに絵や文章で指示しています。



この記号は実行していただくことを強制したり指示する内容を告げるものです。

具体的な指示内容は、(左図の場合は電源プラグを必ずコンセントから抜いていただくことを強制する)図記号の中や近くに絵や文章で指示しています。



必ず実行していただく強制内容です。

具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

ご注意

1. 本書の一部または全部を無断で転載、複製することは硬くお断りします。
2. 本書の内容は予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容について万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどにお気づきの点がございましたらご連絡ください。
4. 本製品の運用した結果および故障、誤作動、あるいは外部要因により生じた結果については責任を負いかねます。
5. 本製品を当社の許可なく分解・改造を行った場合、製品に対する保証を負いかねます。
6. 本製品は日本国内向け製品です。海外ではお使いになれません。
This unit is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

: Windows 95/98は、米国Microsoft Corporationの登録商標です。

: Hayesは、米国Hayes Micro Computer Products, Inc.の登録商標です。

もくじ

お使いになる前に

ご使用上の注意 3

TIMS

商品の確認 4

各部の名称と取り付け 5

TIMS各部の名称

ACアダプターの接続と充電

ご使用上の注意



警告

本機を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

もし、煙がでている、変なおいがあるなどの異常が発生したときは、すぐに電源からプラグを抜いてください。

お手入れをするときは、電源からプラグを抜いてください。抜かないでお手入れをすると、感電の原因となることがあります。また、電源プラグについたほこりは定期的にはふき取るようにしてください。そのまま放置すると火災の原因となります。

近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜くとともに本機に接続されているケーブルを取り外しご使用をお控えください。

本機は防水仕様ではありませんので、水が入ったり、濡れることのないようご注意ください。火災・感電などの原因となります。

濡れた手でコンセントに触れないように注意してください。感電の原因となります。

ACアダプターを加工したり、電源やセンサのコードを曲げたり、ねじったり、傷つけたり、熱器具に近づけて加熱しないように注意してください。

指定の電源電圧以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電などの原因となります。

電源コンセントに他の電気器具を同時に接続するばあいは、合計電流値が規定をこえないように注意してください。

本機を外部DC電源で運用するときの電源電圧は12V～15Vです。大型車などの24Vには接続しないでください。

引火性ガスの発生場所では、電源を入れないよう注意してください。発火の原因となります。

航空機内や病院など使用を禁止された場所では使用しないように注意してください。



注意

付属のACアダプター以外は使用しないでください。ACアダプターはコンセントに確実に差し込んでください。ACアダプターのプラグに金属などが触れると火災・感電の原因となります。

ACアダプターを抜くときは、必ずACアダプター本体を持って抜いてください。コードを引っ張るとコードが傷ついて火災・感電の原因となります。



お願い

動作中に接続コードが抜けたり、振動などにより接続が不安定になると誤動作の原因となります。また、コネクタの接続部にはストレスがかからないよう注意して取り付けてください。





内蔵バッテリーは規定の時間を越えて充電しないでください。

バッテリー本来の性能が維持できなくなります。

内蔵バッテリーを完全に放電するとバッテリーの性能が極度に低下するとともに本機の各種メモリーが消失しますので注意してください。

商品の確認

TIMS システム をご使用のお客様へ

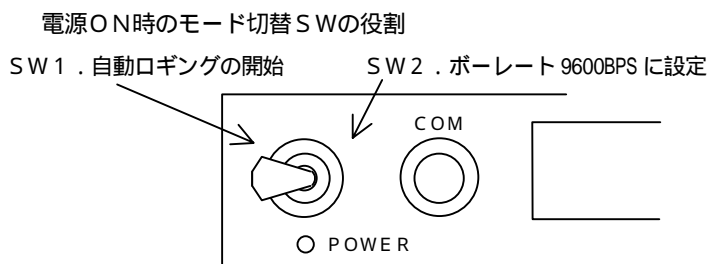
 <p>コントロールユニット</p>	 <p>T / C コネクタケーブルセット 0.5m</p>	 <p>I / O コネクタケーブルセット 0.5m</p>
 <p>ACアダプター</p>		

各部の名称と接続

TIMS 各部の名称と接続

ブラケットに付属のボルト (M6 × 10) を使用してコントロールユニットを取り付けてください。
ねじ部が、付属のボルトより長いものを使用すると内部が破損しますので注意してください。

1. POWERランプ
本機の電源が入っているときに点灯します。
2. モード切替スイッチ
SW1の側で電源スイッチをONすると同時にロギングを開始します。
パソコンが手元がない場合など、パソコンからロギング条件設定をすることなく直接ロギングを開始させたい場合に使用します。
また、SW2の側で電源スイッチをONした場合は、ボーレートを初期値の9600bpsに変更します。



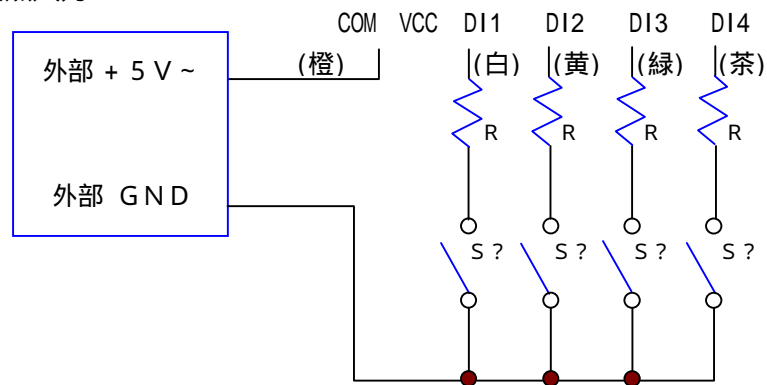
3. COMポート
パソコンのシリアルポートやデータ送信用各種モデム・アダプターなどを接続します。
初期状態では9600BPSです。
4. I/Oポート
アナログ入力ポートの0 ~ 5V・8chとデジタル入・出力ポートの各4chが接続可能です。

I/O ポート

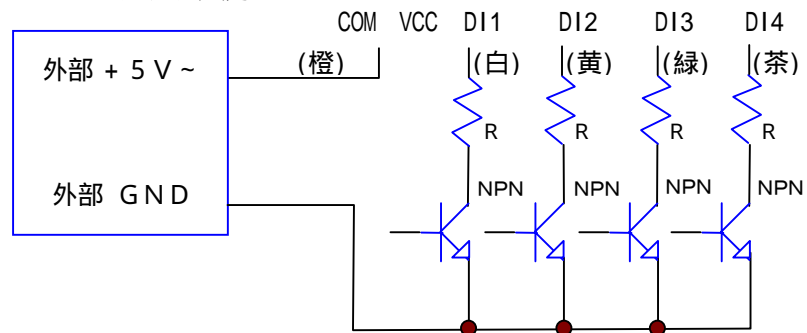
COM VCC (橙)	1	○
DI1 (白)	2	○
DI2 (黄)	3	○
DI3 (緑)	4	○
DI4 (茶)	5	○
DO1 (白)	6	○
DO2 (黄)	7	○
DO3 (緑)	8	○
DO4 (茶)	9	○
COM GND (青)	10	○
+5V (赤)	11	○
AN GND (黒)	12	○
AN1 (白)	13	○
AN2 (黄)	14	○
AN3 (緑)	15	○
AN4 (茶)	16	○
AN5 (白)	17	○
AN6 (黄)	18	○
AN7 (緑)	19	○
AN8 (茶)	20	○

DI 1 ~ DI 4 ポートの使用例

1) 接点入力



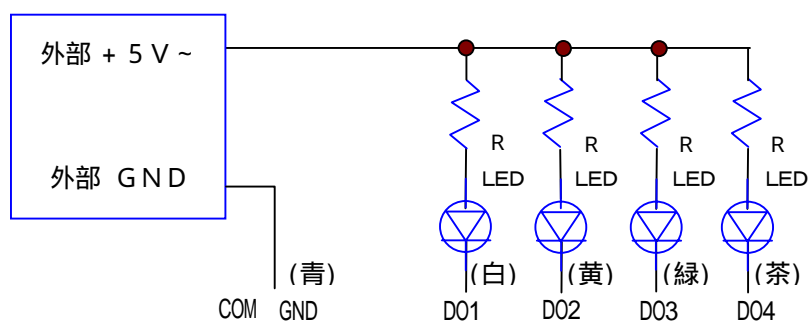
2) オープンコレクタ入力



- 注) 外部電源が 5 V の時は R は必要ありません。
注) 外部電源が 1.2 V の時は 1 K、2.4 V の時は 3 K
程度の抵抗 (R) を入れてください。

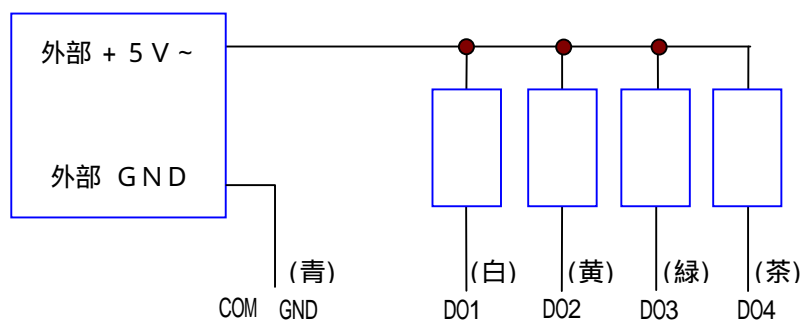
DO1 ~ DO4ポートの使用例

1) LEDの駆動



注) 外部電源が5Vの時は1K、1.2Vの時は2K、2.4Vの時は4K程度の抵抗(R)を入れてください。

2) その他の負荷出力



注) 内部の回路はフォトカプラのオープンコレクタです。
1つの出力回路は10mA程度にしてください。
流しすぎると内部の素子が壊れる可能性があります。

注) 上記の入出力ともに外部電源が無い時はTIMSの内部電源+5V(赤)でも使用できます。
ただし、+5Vで51の抵抗が入っているので電流はあまり流れません。
図中の外部+5VはTIMS内部電源+5Vに、外部GNDはAN GNDに接続します。

アナログポートの使用例

1) ポテンションメータ (この場合は100%になりません。)



注) アナログ入力は0 ~ 5 Vを0 ~ 100.0%に換算されます。

入力インピーダンスが70K程度のため出力インピーダンスは、できるだけ小さくしてください。
出力インピーダンスが大きいと0 ~ 100.0%になりません。

5. RS485ポート
TIMSを増設 (最大100台) して、大規模な遠隔監視システムを構築する場合に使用するポートです。
6. 充電モニターランプ
付属のACアダプターで内蔵バッテリーを充電している時に点灯します。
7. 充電ジャック
付属のACアダプターのプラグを接続します。
8. 電源スイッチ
LAPCOMを内蔵バッテリーで運用するときの電源スイッチです。
外部電源 (12V ~ 15V) で運用するとき、この電源スイッチはON/OFFにかかわらず外部電源が優先となります。
この電源スイッチを、ONにした状態で、外部電源を接続した場合は、外部電源の遮断と同時に、内蔵バッテリー (あらかじめ内蔵バッテリーが充電されていて、運用可能な電圧レベルであること) に切り替わって運用を続け、TIMSはOFFしません。UPSなどによる停電対策が困難なばあい、外部電源で運用するときはあらかじめ内蔵バッテリーを充電し、電源スイッチONで使用してください。ただし、数ヶ月を超える長期連続運用するばあいは、内蔵バッテリーがTIMSを運用可能なレベル以下にまで自己放電していることがあり、その場合、内蔵バッテリーでは停電対策ができなくなりますから注意してください。
9. DC12V端子
ソーラーシステムなど外部バッテリー電源で運用するときは、オプションの外部バッテリー接続コード (赤+ 黒-) を使用します。
結線の際は、バッテリーのターミナルをはずしてショートのを危険を避けて作業してください。
10. 熱伝対接続コネクタ
K熱伝対の接続ポートが10ポートあります。測定対象に応じた各種センサの接続をします。

ACアダプタ - の接続と充電

1. 電源スイッチOFFを確認してください。
2. 付属のACアダプターを使用してTIMSを運用する場合は、あらかじめアダプターのDCプラグに、オプションのDC入力変換コードを接続してからDC12V端子に接続してください。
3. ACアダプターをコンセントに差し込むと同時に、電源スイッチがOFFでも本体回路はONします。
4. 内蔵電池を充電する場合は、付属のACアダプターのDCプラグを本体の充電ジャックに差し込んでください。
5. 付属のACアダプターをコンセントに差し込み、約2時間30分で急速充電が終了するとモニターランプが消灯し、通常のトリクル充電を開始します。

注意

電池の性能が低下する事がありますので、つぎのことは必ず守ってください。

長時間放置し、連続してトリクル充電をしないでください。 5 ~ 40 の温度範囲で充電してください。

完全に充電すると連続して最大約10 時間、内蔵電池での運用ができます。

使用中に電池がなくなるとディスプレイのBATT・LOWが点滅し、やがてオートパワーオフ機能が作動してPOWERランプが消えますが、電源スイッチはONになっていますので一度OFFしてから忘れずに充電してください。充電を行う前に再びONにするとオートパワーオフが作動しないで完全放電し、電池の性能が極度に低下するとともに内部メモリーが消失します。

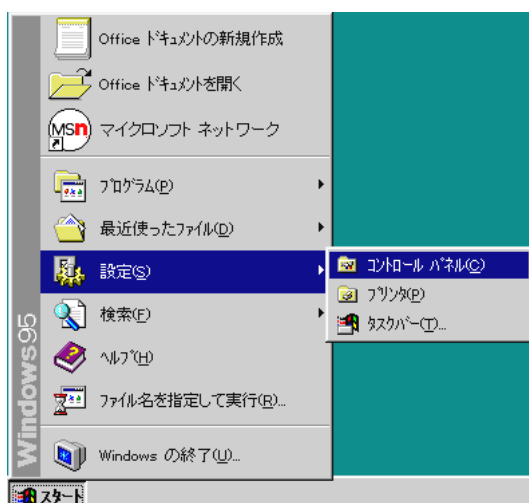
お買い上げ直後や長時間使用しなかったときは充電電池が消耗していますのでご使用の前に充電してください。

Tims Terminalのインストール

Windows 95でのインストール

ハードディスクはCドライブ・フロッピーディスクドライブ1はAドライブに割り当てられていることを前提としています。これと異なる割り当てをしている場合は、割り当てに応じたドライブ番号に替えてインストールをしてください。

1. Lapcom Terminal のフロッピーディスク「#1」「#2」を用意します。
2. 他のアプリケーションを全て終了してから、「スタート」をクリックし、「設定」の「コントロールパネル」をクリックします。



3. 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。



4. 「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」の表示から、「セットアップ (1)」ボタンをクリックします。



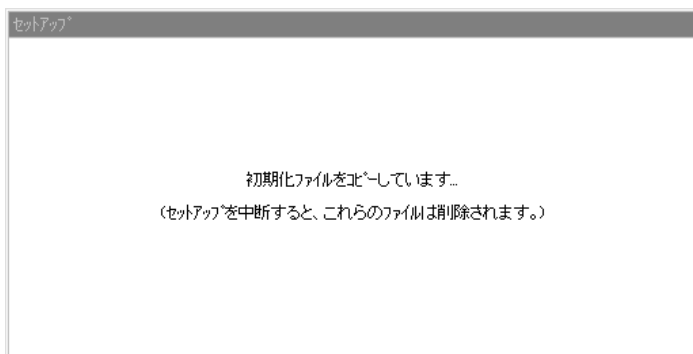
5. Tims Terminal のフロッピーディスク「# 1」をAドライブに挿入し、「次へ (N)」ボタンをクリックします。



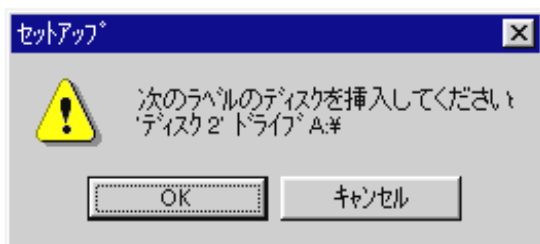
6. セットアッププログラムのコマンドラインに「A: ¥SETUP.EXE」と表示されていることを確認し、「完了」ボタンをクリックしま
す。



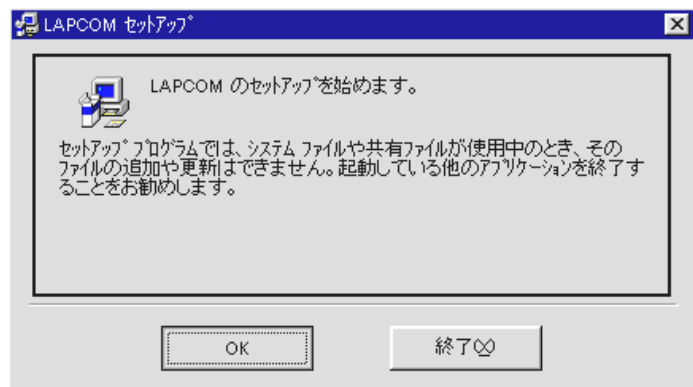
7. 初期化ファイルのコピーが開始されます。



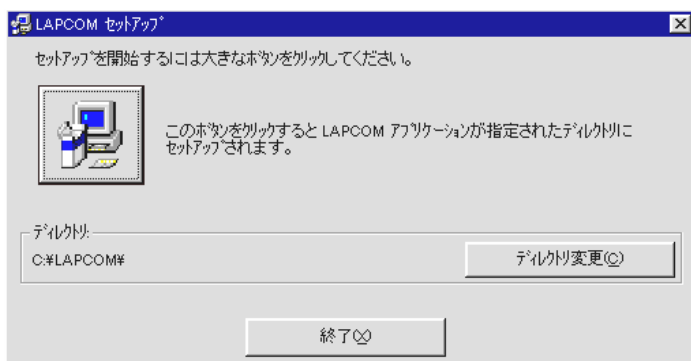
8. 「#1」のフロッピーディスクを取り出し、「#2」のフロッピーディスクをセットして「OK」ボタンをクリックします。



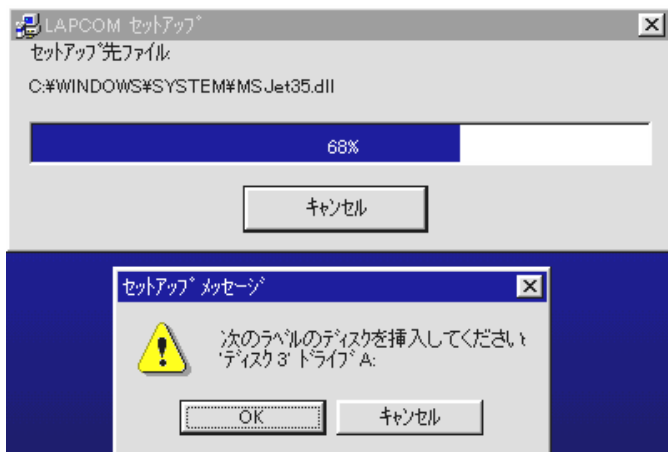
9. 「OK」ボタンをクリックします。



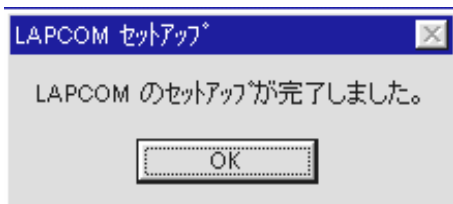
10. インストールするドライブ名とディレクトリ名を表示しています。インストールを続ける場合は、大きな「ボタン」をクリックします。また、インストール先を変更したい場合は、あらかじめドライブ名とディレクトリ名を入力し直してから「ボタン」をクリックします。



11. 「#2」のフロッピーディスクを取り出し、「#3」のフロッピーディスクをセットして「OK」ボタンをクリックします。



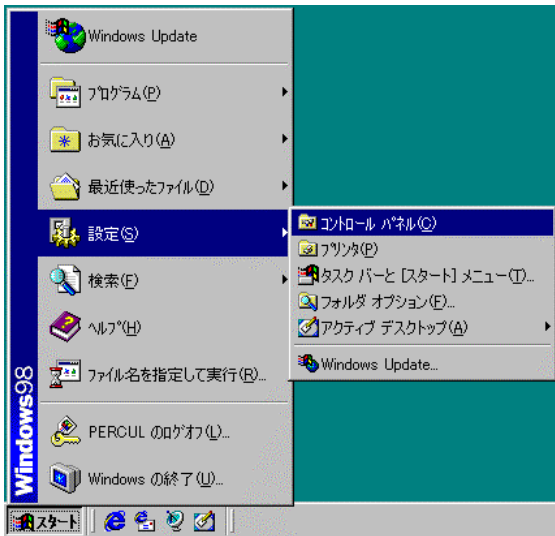
12. 「OK」をクリックして終了します。



Windows 98でのインストール

ハードディスクはCドライブ・フロッピーディスクドライブは、Aドライブに割り当てられていることを前提としています。これと異なる割り当てをしている場合は、割り当てに応じたドライブ番号に替えてインストールをしてください

3. Tims Terminal のフロッピーディスク「#1」「#2」を用意します。
4. 他のアプリケーションを全て終了してから、「スタート」をクリックし、「設定」の「コントロールパネル」をクリックします。



3. 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。



4. 「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」の表示から、「インストール (I)」ボタンをクリックします。



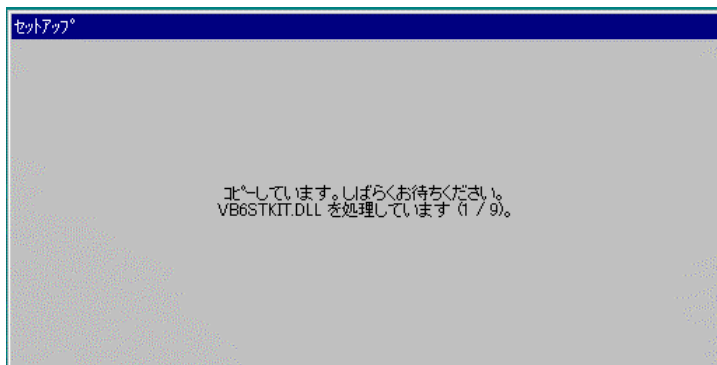
5. Tims Terminal のフロッピーディスク「#1」をAドライブに挿入し、「次へ (N)」ボタンをクリックします。



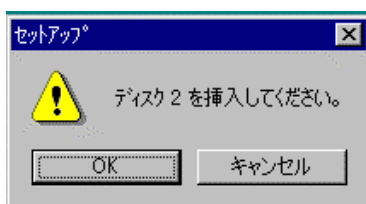
7. セットアッププログラムのコマンドラインに「A : ¥ S E T U P . E X E」と表示されていることを確認し、「完了」ボタンをクリックします。



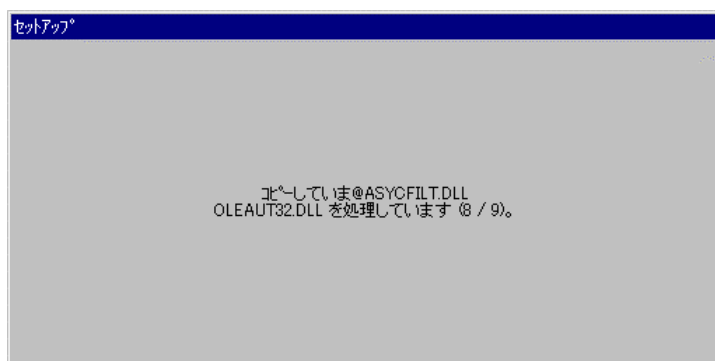
7. 初期化ファイルのコピーが開始されます。



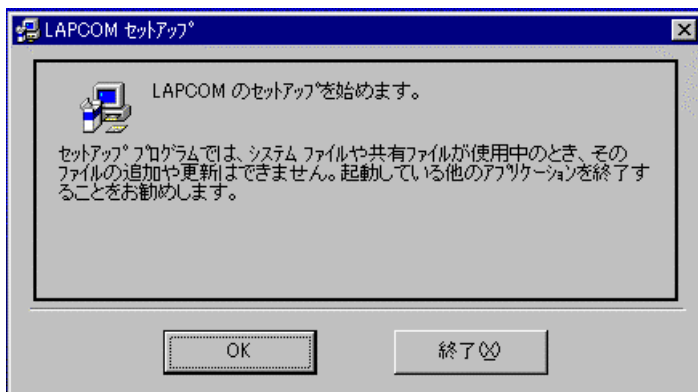
8. 「# 1」のフロッピーディスクを取り出し、「# 2」のフロッピーディスクをセットして「OK」ボタンをクリックします。



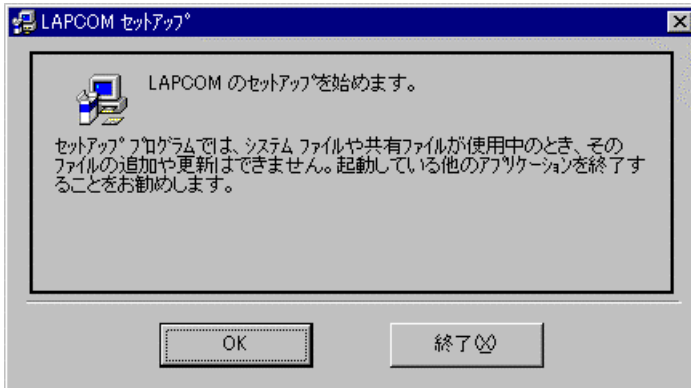
9. 初期化ファイルをコピーしています。



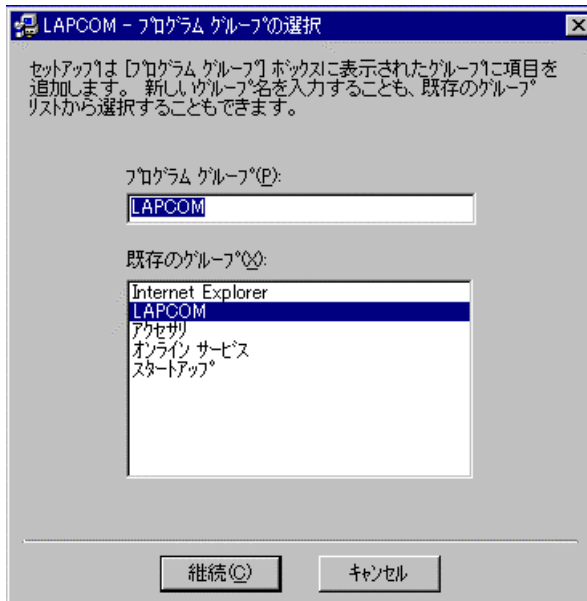
12. 「OK」ボタンをクリックします。



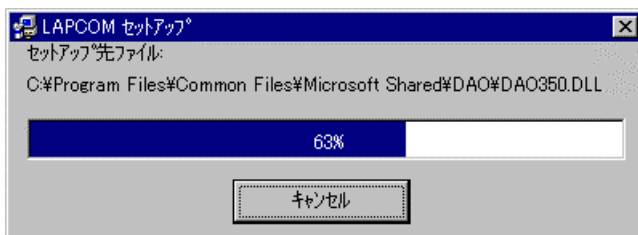
13. インストールするドライブ名とディレクトリ名を表示しています。インストールを続ける場合は、大きな「ボタン」をクリックします。また、インストール先を変更したい場合は、あらかじめドライブ名とディレクトリ名を入力し直してから「ボタン」をクリックします。



14. スタートメニューに登録する「プログラムグループ」名を入力します。既存のグループリストから選択することもできます。



15. セットアップを開始します。



16. 「はい」をクリックします。



17. 「OK」をクリックして終了します。



データ通信

ケーブルによるパソコンとの接続

1. 本機の電源をOFFします。
2. COMポートミニケーブルのプラグを本機のCOMポートに接続します。
3. RS232Cケーブル For PCのコネクタをパソコンのRS-232Cポートに接続し、もう片方をリバースケーブルのPC（パソコン）側黒色のソケットに差し込みます。
4. COMポートミニケーブルのもう片方をリバースケーブルの白色ソケットに差し込みます。
5. 本機の電源をONします。
6. Windowsを起動します。
7. プログラムマネージャの中の **TIMSアイコン**をクリックし、Tims Terminalを起動します。
8. メニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ポップアップメニューのメインポート通信条件をクリックします。



9. **メインポート通信条件設定**ダイアログボックスのポート番号（COM1～COM5）の内、通信ケーブルを接続しているポートを、通信コマンドは白地を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



10. メイン通信回線の「接続」ボタンをクリックします。



11. 端末パラメータ設定をする場合は、メニューバーの「端末パラメータ設定」をクリックし、ポップアップメニューの各ポートの初期及び条件設定、および年月日時の設定をします。



12. メニューバーの「メイン通信設定」をクリックし、ポップアップメニューの「生データ送信開始」をクリックします。



無線モデムによるパソコンとの接続

1. 本機の電源をOFFします。
2. COMポートミニケーブルのプラグを本機のCOMポートに接続します。
3. RS232Cケーブル For PCのコネクタをパソコンのRS-232Cポートに接続し、もう片方をリバースケーブルのPC (パソコン) 側黒色のソケットに差し込みます。
4. COMポートミニケーブルのもう片方をリバースケーブルの白色ソケットに差し込みます。
5. 本機の電源をONします。
6. Windowsを起動します。
7. プログラムマネージャの中の **TIMSアイコン**をクリックし、Tims Terminalを起動します。
8. メニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ポップアップメニューのメインポート通信条件をクリックします。



9. メインポート通信条件設定ダイアログボックスのポート番号 (COM1 ~ COM5) の内、通信ケーブルを接続しているポートを、通信コマンドは白地を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



10. メイン通信回線の「接続」ボタンをクリックします。



11. 端末パラメータ設定をする場合は、メニューバーの「端末パラメータ設定」をクリックし、ポップアップメニューの「各ポートの初期及び条件設定」、「年月日時時の設定」および「アラーム発報設定」をクリックします。



12. メニューバーの「メイン通信設定」をクリックし、ポップアップメニューの「生データ送信開始」をクリックします。



携帯電話等移動体通信用アダプタやモデムによる接続

1. 本機の電源をOFFします。
2. COMポートミニケーブルのプラグを本機のCOMポートに接続します。
3. COMポートミニケーブルのもう片方を、モバイル変換ケーブルを使用して無線モデムのRS - 232Cコネクタと接続します。
4. パソコンのRS - 232Cポートにモデム・アダプタなど該当の通信機器を接続します。
5. 本機の電源をONします。
6. Windowsを起動します。
7. プログラムマネージャの中のTIMSアイコンをクリックし、Tims Terminalを起動します。
8. メニューバーのメイン通信設定をクリックし、ポップアップメニューのメインポート通信条件をクリックします。



9. メインポート通信条件設定ダイアログボックスのポート番号 (COM1 ~ COM5) の内、モデム・アダプタなど該当の通信機器通信ケーブルを接続しているポートを、通信コマンドはAT&FE0S0=10を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



10. 電話番号を登録していない場合はメニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ポップアップメニューの**電話番号の登録**をクリックします。すでに登録している場合は10.へ進みます。



11. メイン通信回線の「**接続**」ボタンをクリックします。



12. ダイヤルリストから接続先の番号を選択して、OKボタンをクリックすると接続開始します。



13. 回線が接続された後、端末パラメータ設定をする場合は、メニューバーの**端末パラメータ設定**をクリックし、ポップアップメニュー各ポートの**初期及び条件設定**、および**年月日時の設定**をします。すでに、設定されている場合は12.へ進みます。



14. メニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ポップアップメニューの**生データ送信開始**をクリックします。



ロギング条件の設定とダウンロード

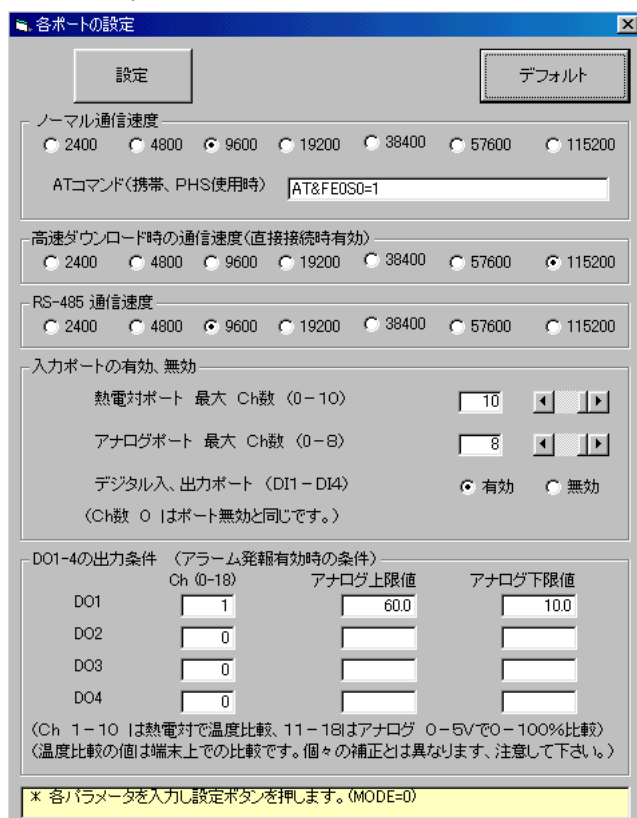
ロギング条件の設定

TIMSはTims Terminalと接続されていることを前提としています。
接続方法の詳細については、あらかじめ本説明書中にあるデータ通信の項目をよくお読みください。

1. メイン通信回線の「**接続**」ボタンをクリックします。
2. 端末パラメータ設定をする場合は、メニューバーの**端末パラメータ設定**をクリックし、ポップアップメニューの**各ポートの初期及び条件設定**または**年月日時の設定**をクリックします。すでに設定している場合は 4.へ進みます。



3. **各ポートの初期及び条件設定**では、通信ボーレートを設定するほか、各ポートの使用数やアナログ上限値・下限値を入力してアラーム出力の設定をします。**年月日時の設定**では接続しているパソコンの日付・時刻を送信してTimsの時刻を更新します。



4. メニューバーのメイン通信設定をクリックし、ポップアップメニューのロギング条件設定をクリックします。



5. 最初に、Timsに現在設定されているロギング条件が表示されます。変更しない場合は「x」をクリックして閉じます。ロギングを開始させるために、以下の項目について入力します。

レート ロギングの周期で、1秒～3600秒の範囲で設定できます。平均化回数は、1秒毎に計測したデータを指定した回数で平均して記録します。レートの1秒に設定されている場合は、平均化することはできません。10秒のレートでは最大10回までの平均化した値での記録が可能です。

メモリー格納モード リングはロギング開始～終了までの間に、Timsがロギング可能な22,933回を超えるデータが発生した場合、最初のデータを消去して最新データを更新記録するモードです。終了までの間に、Timsがロギング可能な22,933回を超えるデータが発生した場合は、ロギング停止するモードです。

開始・終了 日付・時刻を入力して設定ボタンを押すと設定終了です。

設定されると設定条件が再び表示されます。確認して、正しい場合は「x」をクリックして閉じます。

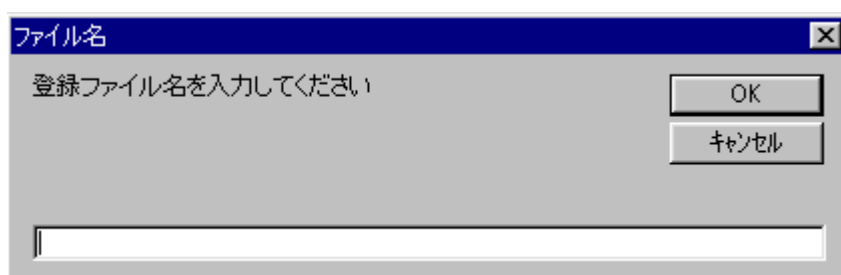


ダウンロード

1. メニューバーの**メイン通信設定**をクリックし、ポップアップメニューの**ダウンロード**をクリックします。



2. ファイル名を入力した後、「OK」ボタンをクリックするとダウンロードを開始します。



アラーム発報設定

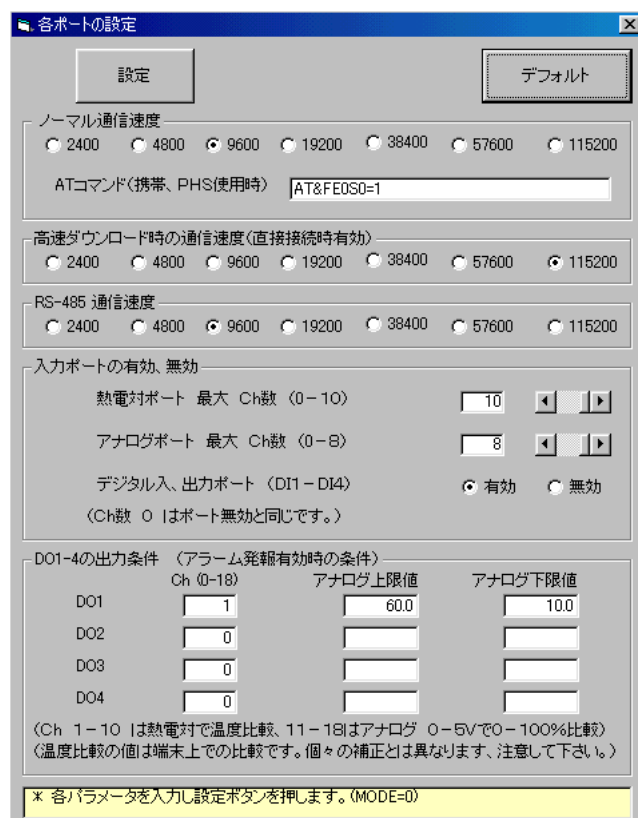
アラーム発報設定

アラーム発報設定は、アラームを発報する上限と下限の温度を設定し、その限度を上回るあるいは下回る温度を記録した場合に、登録した2カ所の電話番号に自動的に電話をかけて知らせることが出来ます。この機能は、携帯電話等移動体通信用アダプタやモデムによる接続のときのみ有効です。

1. メイン通信回線の「接続」ボタンをクリックします。メニューバーの「端末パラメータ設定」をクリックし、ポップアップメニューの「各ポートの初期及び条件設定」をクリックします。



2. 熱電対ポートとアナログポートのうち、4つのチャンネルについてアラーム発報が設定できます。D01-4の出力条件の所に、チャンネル番号、上限値、下限値などを設定します。設定ボタンをクリックします。



3. メニューバーの**端末パラメータ設定**をクリックし、ホップアップメニューの**アラーム発報設定**をクリックします。電話番号を2箇所まで登録できます。**リトライ回数**で、何回までかけるかを設定します。**設定ボタン**を押します。

アラーム発報設定

設定 デフォルト

アラーム発報 V有効/無効

電話番号 1 09012345678

電話番号 2 09098765432

ダイヤルコード ATDT

リトライ回数 10

* 値を入れて設定ボタンを押します。(MODE= 0)

4. 一度回線を切断し、回線の**待機**を押します。以下のようなダイアログボックスが表示され、待機中になります。上記で設定した上下限值を超える値が記録された場合、登録された番号に、設定したリトライ回数だけ、自動的に電話をかけて知らせます。電話番号を2ヶ所、リトライ回数を10回設定した場合、それぞれの番号に5回づつ交互に電話をかけます。



アナログ変換と単位設定

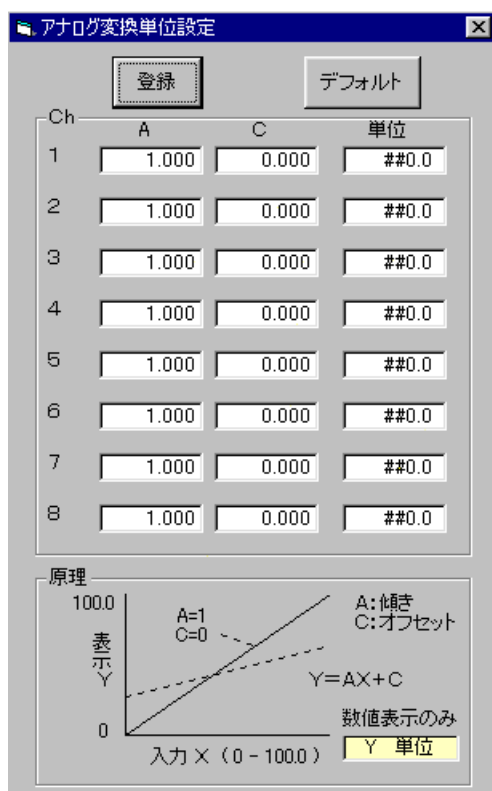
アナログ変換と単位設定

アナログ変換と単位設定は、Tims Terminalに於いて表示するアナログ出力表示値 0～100.0%をユーザーの設定によって、測定対象に応じた上下限や単位にパソコン上で変換表示するために、ソフトウェアに対して行います。

1. メニューバーの個別補正をクリックし、ポップアップメニューの**アナログ変換と単位設定**をクリックします



2. 変換して表示するCHの A:傾き C:オフセット 単位: を設定します。
 まず、入力X(下限0～上限1000)とは、TIMSがTims Terminalに転送入力したオリジナルデータです。
 Cは、変換表示する値の下限値が0以下の場合に設定するオフセットです。
 ##0.0 は、表示スタイルと単位を設定します。



例

Ch1. 変換表示したい下限値0.000V ~ 上限値+5.000V
 フルスケール5.000V 0.005Vステップの場合。
 (A:傾き) 5.000 ÷ 100.0 (入力X) = 0.05
 (オフセット) 0
 (単位) #0.000V
 先頭の#は正数または負数を表す為、にかならず付ける。

Ch2. 変換表示したい下限値+000.0kg ~ 上限値+500.0kg
 フルスケール500.0kg 0.5kgステップの場合。
 (A:傾き) 500.0 ÷ 100.0 (入力X) = 5
 (オフセット) 0
 (単位) ###0.0kg
 先頭の#は正数または負数を表し、のこりの#は、それぞれ100の位の整数と10の位の整数を意味しています。少数点以下を表示する場合、1の位は0を設定します。

Ch3. 変換表示したい下限値+0000mm ~ 上限値+1000mm
 フルスケール1000mm 1mmステップの場合。
 (A:傾き) 1000 ÷ 100.0 (入力X) = 10
 (オフセット) 0
 (単位) ####mm
 先頭の#は正数または負数を表し、のこりの#は、それぞれ1000の位の整数と100の位、10の位、1の位の整数を意味しています。少数点以下の表示は無い為1の位も#を設定しています。

(メモ) 単位に、%を使用することは出来ません。

3. 登録ボタンを押してから、「×」をクリックしてください。